

四半期報告書

(第65期第2四半期)

能美防災株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【経営上の重要な契約等】	5
3 【財政状態及び経営成績の分析】	5
第3 【設備の状況】	7
第4 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【株価の推移】	10
3 【役員の状況】	10
第5 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
2 【その他】	23
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	24

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成20年11月12日

【四半期会計期間】 第65期第2四半期(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

【会社名】 能美防災株式会社

【英訳名】 NOHMI BOSAI LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 橋 爪 毅

【本店の所在の場所】 東京都千代田区九段南四丁目7番3号

【電話番号】 03(3265)0216

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 荒 井 一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区九段南四丁目7番3号

【電話番号】 03(3265)0216

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 荒 井 一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第65期 第2四半期連結累計期間	第65期 第2四半期連結会計期間	第64期
会計期間	自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日	自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日	自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日
売上高 (百万円)	41,050	21,349	84,947
経常利益 (百万円)	2,985	1,474	5,151
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,655	816	2,853
純資産額 (百万円)	—	50,321	49,318
総資産額 (百万円)	—	80,721	81,249
1株当たり純資産額 (円)	—	815.78	798.86
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	27.42	13.52	47.26
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	—	61.0	59.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,991	—	5,733
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,065	—	△1,831
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△475	—	△732
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	—	18,625	17,175
従業員数 (名)	—	2,161	2,068

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	2,161
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員数であります。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	1,382
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員数であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)
火災報知設備	6,889
消火設備	5,685
保守点検等	3,231
その他	1,077
合計	16,884

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第2四半期連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(百万円)	受注残高(百万円)
火災報知設備	12,239	12,445
消火設備	5,143	20,595
保守点検等	6,394	9,615
その他	809	795
合計	24,586	43,452

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)
火災報知設備	10,108
消火設備	4,625
保守点検等	5,310
その他	1,304
合計	21,349

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間におけるわが国の景気は、エネルギー・原材料価格高騰、米国における金融不安の高まりやそれに伴う輸出への影響、株式・為替市場の不安定な状況などから先行きは不透明となっております。当防災業界におきましても、景況感の悪化により設備投資は減少しており、また、公共投資は低調に推移するなど依然として厳しい経営環境が続いております。このような環境のなか、当社グループは積極的な営業活動に努めました。

その結果、当第2四半期連結会計期間における売上高は21,349百万円となりました。

売上高の内訳をセグメント別にみますと、火災報知設備は10,108百万円、消火設備は4,625百万円、保守点検等は5,310百万円、その他は1,304百万円となりました。

また、利益につきましては、営業利益は1,419百万円、経常利益は1,474百万円、四半期純利益は816百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、第1四半期連結会計期間末に比べ受取手形及び売掛金や投資有価証券は減少となりましたが、たな卸資産は増加し17,225百万円となり、また有形固定資産も増加で9,659百万円となり、合計は若干増加の80,721百万円となりました。

負債につきましては、第1四半期連結会計期間末に比べ流動負債はほぼ横ばいの23,715百万円、固定負債は引当金などの減少により6,684百万円となり、合計は30,399百万円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金の積み増しなどにより、合計で50,321百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、第1四半期連結会計期間末と比較して420百万円の増加となり、18,625百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

たな卸資産の増加額1,816百万円などの流出があったものの、税金等調整前四半期純利益が1,399百万円、売上債権の減少による1,941百万円の流入、未成工事受入金の増加による1,230百万円の流入などにより、営業活動によるキャッシュ・フローの合計は795百万円の流入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

主に固定資産の取得による支出等で388百万円の流出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入金の純増による若干の流入はあったものの、財務活動全体のキャッシュ・フローは3百万円の流出となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は378百万円であります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、第1四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成20年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	60,832,771	60,832,771	東京証券取引所 (市場第一部)	—
計	60,832,771	60,832,771	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年9月30日	—	60,832	—	13,302	—	12,743

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
セコム株式会社	東京都渋谷区神宮前1丁目5-1	30,598	50.30
能美防災代理店持株会	東京都千代田区九段南4丁目7-3	1,678	2.76
能美防災取引先持株会	東京都千代田区九段南4丁目7番3号	1,524	2.51
能美防災従業員持株会	東京都千代田区九段南4丁目7-3	1,366	2.25
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	1,140	1.87
富士電機ホールディングス株式会社	神奈川県川崎市川崎区田辺新田1番1号	855	1.41
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口4G)	東京都中央区晴海1丁目8-11	790	1.30
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区有楽町1丁目1-2	765	1.26
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2-1	745	1.23
能美防災安衛協持株会	東京都千代田区九段南4丁目7-3	721	1.19
計	—	40,185	66.06

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 333,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,160,000	60,160	—
単元未満株式	普通株式 339,771	—	—
発行済株式総数	60,832,771	—	—
総株主の議決権	—	60,160	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

② 【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 能美防災株式会社	東京都千代田区九段南 4丁目7番3号	333,000	—	333,000	0.55
計	—	333,000	—	333,000	0.55

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	667	719	716	705	730	850
最低(円)	603	616	660	608	661	701

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の様動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,547	16,078
受取手形及び売掛金	※3 22,560	※3 28,523
有価証券	2,000	2,000
製品	3,306	2,160
原材料	3,734	3,700
仕掛品	1,361	1,041
未成工事支出金	8,823	6,862
その他	2,555	2,457
貸倒引当金	△351	△313
流動資産合計	61,538	62,510
固定資産		
有形固定資産	※1 9,659	※1 9,408
無形固定資産	899	913
投資その他の資産		
投資有価証券	3,062	3,298
その他	5,712	5,275
貸倒引当金	△150	△157
投資その他の資産合計	8,623	8,417
固定資産合計	19,182	18,738
資産合計	80,721	81,249

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,722	10,588
短期借入金	37	20
未払法人税等	1,355	1,939
賞与引当金	1,712	2,942
完成工事補償引当金	21	57
工事損失引当金	273	279
その他	9,592	9,233
流動負債合計	23,715	25,061
固定負債		
退職給付引当金	5,722	5,859
役員退職慰労引当金	549	594
負ののれん	28	34
その他	384	379
固定負債合計	6,684	6,868
負債合計	30,399	31,930
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,302	13,302
資本剰余金	12,744	12,744
利益剰余金	23,032	21,882
自己株式	△219	△213
株主資本合計	48,859	47,715
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	200	320
為替換算調整勘定	193	202
評価・換算差額等合計	393	523
少数株主持分	1,067	1,079
純資産合計	50,321	49,318
負債純資産合計	80,721	81,249

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	41,050
売上原価	28,656
売上総利益	12,393
販売費及び一般管理費	*2 9,580
営業利益	2,812
営業外収益	
受取利息	58
受取配当金	26
負ののれん償却額	6
持分法による投資利益	24
その他	120
営業外収益合計	236
営業外費用	
支払利息	2
賃貸費用	31
その他	30
営業外費用合計	64
経常利益	2,985
特別損失	
投資有価証券評価損	56
固定資産処分損	25
特別損失合計	82
税金等調整前四半期純利益	2,903
法人税等	*3 1,233
少数株主利益	14
四半期純利益	1,655

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
売上高	21,349
売上原価	15,006
売上総利益	6,343
販売費及び一般管理費	※2 4,924
営業利益	1,419
営業外収益	
受取利息	35
受取配当金	2
負ののれん償却額	3
持分法による投資利益	9
その他	45
営業外収益合計	95
営業外費用	
支払利息	1
賃貸費用	15
為替差損	20
その他	3
営業外費用合計	40
経常利益	1,474
特別損失	
投資有価証券評価損	56
固定資産処分損	18
特別損失合計	74
税金等調整前四半期純利益	1,399
法人税等	※3 569
少数株主利益	14
四半期純利益	816

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,903
減価償却費	579
負ののれん償却額	△6
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	25
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△165
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△44
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,230
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△36
受取利息及び受取配当金	△84
支払利息	2
持分法による投資損益 (△は益)	△24
固定資産処分損益 (△は益)	25
投資有価証券評価損益 (△は益)	56
売上債権の増減額 (△は増加)	5,964
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,482
仕入債務の増減額 (△は減少)	△837
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	1,858
その他	△830
小計	4,671
利息及び配当金の受取額	84
利息の支払額	△2
法人税等の支払額	△1,761
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,991
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の増減額 (△は増加)	△22
固定資産の取得による支出	△927
貸付けによる支出	△23
貸付金の回収による収入	46
その他	△138
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,065
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	17
配当金の支払額	△484
その他	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△475
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,449
現金及び現金同等物の期首残高	17,175
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 18,625

【継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況】

当第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
会計処理の原則及び手続の変更
(1) 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用 「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については主として総平均法による原価法から主として総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。なお、この変更による損益への影響はありません。
(2) 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。なお、この変更による損益への影響はありません。

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
固定資産の減価償却費の算定方法 固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
税金費用の算定方法 税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。 なお、法人税等調整額に関しては、法人税等を含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
※1	有形固定資産の減価償却累計額は11,249百万円であります。	※1	有形固定資産の減価償却累計額は11,190百万円であります。
2	偶発債務 能美保利(北京)智能技術有限公司の入札及び履行保証に対し、3百万円(CNY223千)の保証を行っております。	2	偶発債務 能美保利(北京)智能技術有限公司の入札及び履行保証に対し、9百万円(CNY637千)の保証を行っております。
※3	受取手形裏書譲渡高 43百万円	※3	受取手形裏書譲渡高 103百万円
4	当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と貸出コミットメント契約を締結しております。 これらの契約に基づく当第2四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。 貸出コミットメントの総額 4,000百万円 借入実行残高 — 差引額 4,000	4	当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と貸出コミットメント契約を締結しております。 これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。 貸出コミットメントの総額 4,000百万円 借入実行残高 — 差引額 4,000

(四半期連結損益計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
1	当社グループの売上高は、通常の営業形態として第4四半期連結会計期間の売上高が他の四半期連結会計期間と比較して多くなる傾向にあります。
※2	販売費及び一般管理費の主なものは次のとおりであります。 給料諸手当 3,456百万円 賞与引当金繰入額 1,119百万円 役員退職慰労引当金繰入額 40百万円 貸倒引当金繰入額 30百万円
※3	当第2四半期連結累計期間における税金費用については、法人税、住民税及び事業税と法人税等調整額を一括し法人税等として表示しております。

当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
1	当社グループの売上高は、通常の営業形態として第4四半期連結会計期間の売上高が他の四半期連結会計期間と比較して多くなる傾向にあります。
※2	販売費及び一般管理費の主なものは次のとおりであります。 給料諸手当 1,747百万円 賞与引当金繰入額 552百万円 貸倒引当金繰入額 60百万円 役員退職慰労引当金繰入額 20百万円
※3	当第2四半期連結会計期間における税金費用については、法人税、住民税及び事業税と法人税等調整額を一括し法人税等として表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
※	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
	現金及び預金勘定 17,547百万円
	有価証券勘定 2,000
	預入期間が3か月を超える定期預金 Δ 922
	現金及び現金同等物 <u>18,625</u>

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	60,832,771

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	456,697

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	484	8	平成20年3月31日	平成20年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年11月4日 取締役会	普通株式	302	5	平成20年9月30日	平成20年12月10日	利益剰余金

(リース取引関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

	火災報知設備 (百万円)	消火設備 (百万円)	保守点検等 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	10,108	4,625	5,310	1,304	21,349	—	21,349
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	11	25	0	44	81	(81)	—
計	10,120	4,650	5,310	1,349	21,431	(81)	21,349
営業利益又は営業損失	1,620	△59	958	80	2,600	(1,181)	1,419

当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

	火災報知設備 (百万円)	消火設備 (百万円)	保守点検等 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	18,725	10,679	9,229	2,415	41,050	—	41,050
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	23	97	0	94	216	(216)	—
計	18,748	10,777	9,230	2,510	41,266	(216)	41,050
営業利益	2,936	556	1,363	180	5,037	(2,224)	2,812

(注) 1 事業区分の方法

事業の種類を考慮し、火災報知設備、消火設備、保守点検等、その他に区分しております。

2 各事業区分に属する主要営業品目

火災報知設備：自動火災報知設備・環境監視システム・防火戸、防排煙設備他

消火設備：各種スプリンクラー設備・泡消火設備・プラント防災設備・トンネル防災設備他

保守点検等：各種防災設備に係る保守点検および補修業務・防災設備のリース他

その他：駐車場設備・防犯設備他

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
815円78銭	798円86銭

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	50,321	49,318
普通株式に係る純資産額(百万円)	49,253	48,238
差額の主な内訳(百万円)		
少数株主持分	1,067	1,079
普通株式の発行済株式数(株)	60,832,771	60,832,771
普通株式の自己株式数(株)	456,697	448,014
1株当たりの純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	60,376,074	60,384,757

2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
1株当たり四半期純利益 27円42銭	1株当たり四半期純利益 13円52銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 —	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 —

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(百万円)	1,655	816
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,655	816
普通株式の期中平均株式数(株)	60,381,236	60,378,754

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第65期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)中間配当については、平成20年11月4日開催の取締役会において、平成20年9月30日の最終の株主名簿および実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次の通り中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|-------------|
| ① 配当金の総額 | 302百万円 |
| ② 1株当たりの金額 | 5円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成20年12月10日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月12日

能美防災株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 飯塚 昇 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 豊島 忠夫 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている能美防災株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、能美防災株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成20年11月12日

【会社名】 能美防災株式会社

【英訳名】 NOHMI BOSAI LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 橋 爪 毅

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都千代田区九段南四丁目7番3号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 橋爪 毅 は、当社の第65期第2四半期(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。